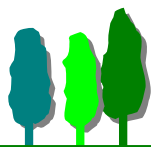


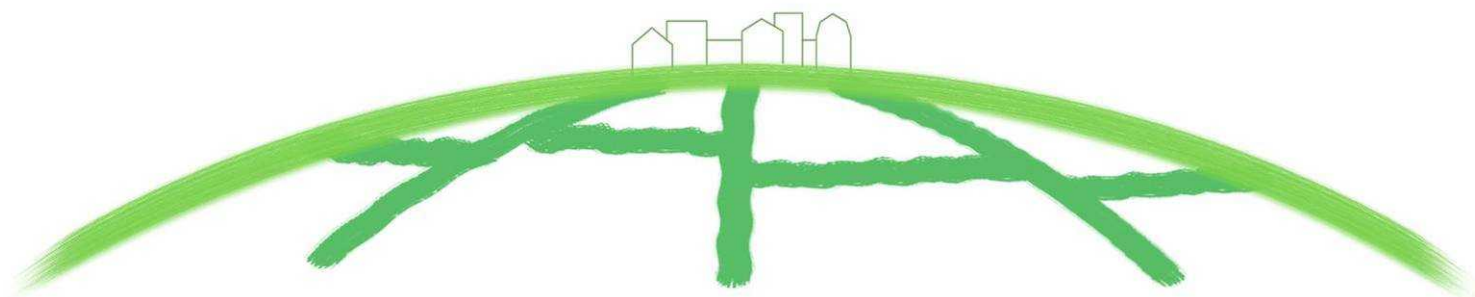
まちづくりフォーラム

～できることから一歩ずつ！

繋がり広がる地域の街づくり～



報告書



平成25年3月

中標津町

まちづくりフォーラム

～ できることから一歩ずつ！繋がり広がる地域の街づくり～

日 時：平成25年3月19日（火）19:00～20:30

場 所：中標津町総合文化会館（しるべっと）コミュニティホール

参加者：フォーラム参加者120名

目 的：新たな『中標津町都市計画マスタープラン(通称:都市マス)』が策定され、2年目を迎えた平成24年度は、昨年度設立された2つの地域と新たに設立された1つの地域の街づくり協議会により、地域の主体的な取り組みが行われました。

今年度の「まちづくりフォーラム」では3つの地域の代表者による活動報告とパネルディスカッションで地域における今後の活動について討論し、「中標津町都市計画マスタープラン 地域別の街づくり構想」の実現へ向け、町民のさらなる主体的な活動のきっかけとなるよう開催しました。

次 第

（司会進行 中標津町建設水道部都市住宅課長 望月 正人）

1．開 会

2．開会挨拶 中標津町長 小林 実

3．地域街づくり活動報告～できることから一歩ずつ！繋がり広がる地域の街づくり～

西町・川西街づくり協議会 原 怡男 氏（西町・川西街づくり協議会会長）

中心部地域街づくり協議会 上原 芳昭 氏（中心部地域街づくり協議会会長）

西部地域街づくり協議会 野毛 徳利 氏

（西部地域街づくり協議会・たこあげ大会実行委員長）

4．パネルディスカッション

パネリスト ・原 怡男 氏

・上原 芳昭 氏

・野毛 徳利 氏

コメンテーター ・小林 英嗣 氏

（都市地域共創研究所代表理事・北海道大学名誉教授）

コーディネーター・濱田 暁生 氏（㈱シー・アイ・エス計画研究所会長）

5．閉会

まちづくりフォーラム ～できることから一歩ずつ！繋がりが広がる地域の街づくり～

開催日時：平成 25 年 3 月 19 日（火）19:00～20:30

開催場所：中標津町総合文化会館 しるべっと コミュニティホール

参加者：120 人

開会：中標津町都市住宅課長 望月 正人

皆さまこんばんは。定刻の時間になりましたので只今より、まちづくりフォーラムを開催いたします。皆様方には年度末何かとご多忙の中ご出席いただきましてありがとうございます。



本日の進行役を務めます中標津町役場都市住宅課の望月と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日のまちづくりフォーラムは、『できることから一歩ずつ！繋がりが広がる地域の街づくり』をテーマに地域街づくり活動報告、パネルディスカッションの 2 部構成で企画しております。よろしくお願ひいたします。

それでは、開会に先立ち、中標津町長小林 実よりご挨拶がございます。

開会挨拶：中標津町長 小林 実

皆さんこんばんは。

本日は年度末を控えて大変お忙しい中、まちづくりフォーラムにご参加いただきまして、心から感謝を申し上げます。そしてまた、日頃から町政運営に対しご理解をいただいておりますことをこの場をお借りして厚くお礼を申し上げる次第でございます。

ここにあります『環境首都 なかしべつ～都市マス通信～』というパンフレットがありますけれども、22 年度に『中標津町都市計画マスタープラン』の策定をしております。本日お集まりをいただいている皆様方にもそれぞれの分野でまちづくりに取り組んでいただいていると思いますけれども、地域の皆さんと共に作り上げたこの

マスタープランの『地域別構想』中にありますけれども、この実現に向けて取り組んでいただいております。まさに協働のまちづくりという原点であろうとそんなふうに確信をしております。

今回のフォーラムでは昨年度から引き続き活動しております西町・川西街づくり協議会、そして中心部の街づくり協議会の事業活動報告をさせていただきます。また、今年度新たに設立されました西部地域の街づくり協議会の活動報告もさせていただきたいと思っております。本日のフォーラムをきっかけにまた新たな街づくり活動が始まることを、ご期待申し上げたいというふうに思います。



本日のコメンテーターには皆さんもご承知の通り、北海道大学の名誉教授であります小林先生、昨年に引き続き今年もおいでをいただきました。先生におかれましては本当に中標津町の街づくりにご指導をいただいておりますことをこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

そしてまた、コーディネーターにはこの都市マス策定にも関わっていただきました株シー・アイ・エス計画研究所の濱田会長にもお越しをいただいております。どうぞひとつよろしくお願ひ申し上げます。

そしてまた、パネラーの皆様にはどうぞひとつこれからの議論もよろしくお願ひしたいと思います。

今年の冬は非常に寒さも厳しく雪の多い冬でございました。3 月 2 日から 3 日にかけて大変いたましい事故が発生してしまいましたけれども、心からお悔やみを申し

上げたいと思います。

そんな中、3月14日に議会が終わりまして、新しい年度予算が成立をいたしました。今度は執行に当たっていくわけですが、行政としてしっかり対応していきたいと思っております。

結びになりますけれども、このフォーラムに参加をいただいた皆さんがご健勝で、地域に戻られてもご活躍をいただきたいとご祈念を申し上げまして、私からのご挨拶に代えさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。よろしくお願いいたします。



司会：望月

地域街づくり活動報告、パネルディスカッションに入りたいと思います。地域街づくり活動報告、パネルディスカッションに参加していただく方をご紹介します。

会場の皆様方から見まして左側より、コーディネーターは中標津町都市計画マスタープランの策定に携わっていただきました(株)シー・アイ・エス計画研究所会長の濱田 暁生様に進めていただきます。

本日のコメンテーターには中標津町都市計画審議会会長、一般社団法人都市地域共創研究所代表理事、北海道大学名誉教授小林 英嗣様にお願いしております。

パネリストを紹介させていただきます。それぞれの地域で地域別構想の実現に向け、積極的に取り組んでいただいております西町・川西街づくり協議会会長原 怡男様でございます。中心部地域街づくり協議会会長上原 芳昭様でございます。今年度新たに街づくり協議会が組織されました西部地域街づくり協議会たこあげ大会実行委員長の野毛 徳利様でございます。

それでは『できることから一歩ずつ！繋がり広がる地域の街づくり』と題しまして、地域街づくり活動報告、

パネルディスカッションを始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

(濱田コーディネーター)

それではコーディネーターという形で進行役を勤めさせていただきます。このフォーラムの開催の趣旨でございます。先程町長さんからもお話がありました通り、都市計画マスタープランという中標津の街づくりの上でも特に都市部の土地利用計画の大きな方針を定める計画を10年前に作りましてその後見直しがされました。計画を作るにあたってはたくさん今日もいられていますが、地域の方々のご意見を聞きながら進める。そういうやり方をさせていただきました。それから、この町の都市計画マスタープランの大きな柱として、計画が作られただけじゃなくそれが具体的に動いていくそこをきちとやっていこうということをお願いしながらやってまいりました。



昨年は出来た後、1年間の間にどのようなことをやったかということを発表しながら、じゃあうちの地域でも取り組めるよということで、今日お話していただく野毛さん達も西町・川西、中心部地域の方々の活動を見ながらうちもやりたいなということで手を挙げていただいてやっていただきました。今日はタイトルにもあります通り、『都市計画マスタープラン』、「なんか難しそうな計画ですごい大変なことだ。」という感じではなくて、自分達の身近なところで出来そうなことをやってらっしゃる方達からご報告いただきながら、じゃあ自分達も自分達の住んでいる地域に少しずつでも関わりながら、より暮らしやすくしていくようなきっかけになるようなことができないか。そういうことをみんなで掴んでいくような議論になれば良いかなというふうに思っております。です

から、小林先生にも毎回来ていただきながら、基調講演
いただいていたのですけれども、今回は地域の方々の活
動の状況を新聞紙上だとか、くちこみではご存知でしょ
うけれども、意外ときちんと伝わっていないところもあ
るので、こういうパネルとかを作りながらも実際に関わ
った方達のお話をスライドの映像で見ていただきながら、
その中で苦労話だとか、楽しかったことだとか、課題
だとか、もっとこういうことをやりたいというようなこ
ともお聞きしながら、それに対する今後の方向付けのア
ドバイスをいただいたり、会場の方からも意見をいただ
いたりしながら、より良い活動に繋げていければなとい
うふうに思っているわけです。

一年に一回という格好になりますけれども全体で考え
ていこうと、各地域でいろいろな活動をされています。
その展開としてという意味でのフォーラムをしっかりとや
っていきましょうということも都市計画マスタープラン
の中に使っていたものですから、こういうフォーラムに
なっております。

今日は一年を振り返っての課題から次へのステップだ
とか、なかなか難しいところをどうやって突破されたか
等。でも、その中でもこういう悩みもあるのだとそんな
こともお聞かせいただきながら、小林先生からのアドバ
イス、会場の方からのご意見もいただきながら、今後に
向けての広がりが出てくると良いかなと思っております。

前振りが長くなりましたが、先程の趣旨に沿いまして
活動実績の報告ということで、各パネラーの方々からご
報告をいただくような格好にしたいと思います。よろし
くお願いいたします。

地域街づくり活動報告：西町・川西街づくり協 議会会長 原 怡男 氏

では最初に、西町・川西の取り組みについて報告を申
上げたいと思います。ご覧のように道々俣落西5条線
に沿って西町・川西地区がそのように表示されていると
ころで、特徴を一口でいえば大変緑が豊かな地域である
と良いと思います。

目標はですね。これが一番私は大事だと思うのですけ
れども、『緑豊かな環境を暮らしの中に活かす街づくり』
と、こういうテーマです。問題はですね。これを本当に
まず共有するというか、共通の理解を図ることが一番基

礎になるというところからスタートしました。

そして24年度はこの目標を実現するために、何が出来
るかということについて色々検討しました。その具体的
な取り組みを進めるために、協議会、ここにいるメンバ
ー、西町と川西の方から協議会を立ち上げるに当たって7
名で構成して、色々計画等について検討し、推進して
まいりました。



今年度、一番にスタートしたのは緑の環境を活かすた
めには、実際に西町や川西にはどういった緑の環境がある
のかということを目で見分けるようにしたいと、その
考え方に立って取り組んだのがこの『緑の名所16』と
いうのを選びまして、一つのマップを作りました。ここ
にありますのは大きいですが、実際のものはこれです。
ポケットに入るサイズのもので作りました。この中
に西町と川西地区にある緑の名所というか、そういう大
げさなものではないのですが、実際のものに即したもの
を紹介させていただいたと、こういうことでございます。
そしてこれは1,500部作りまして、町長さんを初め町内
会、それから関係の機関、報道機関、図書館とかそうい
うところにも展示させていただいたり、西町のほうでは
コンビニとか郵便局にも置かせていただきました。そう
いうふうにして出来るだけ町民の方にお知らせするとい
うことをやってまいりました。新聞等にもこの様に紹介
をしていただいて大変感謝しております。このマップが
出来たら、これは第一歩なのですけれどもこれを活用し
ていくところが大事だろうということで、今年実施した
のは一番上のところに書いてありますけれども『緑紅葉
を観る会』というのを実施しました。実際に携わったメン
バーも自分の足で実際に見て歩く機会がなかなか持て
なかったと、作る段階では一回見ているのですけれども、
そんなので今回初年度はマップ作りに取り組んだ関係者、

役場の関係課の方々、それから株シー・アイ・エス計画研究所の方にも案内して、17名の参加を得て10月の段階で実施しました。当日、大変快晴に恵まれて、紅葉を観る機会としては大変良かったと思います。その一つです。これは個人の庭です。臼井さんの庭なのですが、こういう素晴らしい松がありまして、見ただけで私も非常に感銘を受けました。普段私は川西にいるのですが、西町にこういう素晴らしいところがあるということを実際に示していただいて、これはマップを見た何人かの方、うちの町内会の人も行ってこのマップを携えながら見てきたと、「大変素晴らしいですね。」と、これはもう30年くらい掛かって丁寧に手入れされているということも伺いました。そういうのが行く度にだんだん分かってきます。これは周辺のこういうふうな環境も整備されています。

次は西町にある小林さんのお宅の庭です。そこに年間を通して彩りを考えて花を育てておられるのと、裏のほうに素晴らしい紅葉の木があります。西町・川西、町内もそうでしょうけど、恵庭市とかの庭作りとは違って、あちは薔薇とか専門にやっていますけれども、こちらのほうは花と結構木が入っています。これが、中標津、西町・川西の特徴ではないかと思しますので、そのようにご覧いただければ良いと思います。これは明らかに木が入っておりまして、大変素晴らしい環境を見せていただきました。これはそれ以外にもこういう色々な工夫がされているという。奥さんも参加されて梟の置物を飾られたりして、本当に味わいのある庭作りがされているというのを実感しました。

これは西町のコンビニのすぐ隣です。佐々木さんのお宅の庭です。松を中心に年間を通して非常に下草刈りから、精魂こめて環境整備されている。町内の方も何人か見えられたと聞いています。「来られたら中にも入ってみたいだったりした。」と、本人おっしゃっていました。

これもう、松の刈り込みというのですか、私は素人です。何回かあそこを通ると本当に良く手入れされているなというのが実感として伝わってきます。これはちょっと遊び心があるのかなと、ある漫画の本にでてきた波平さんのようなちょっと一本生えておりますね。そういう素晴らしいところもあると。

右上は赤エゾ松の並木があるのです。あまり人の手の加わらない形だと思のですが、大変素晴らしい自然

な状態です。最後に17名で回ったところで交流会をしました。大変楽しく、最初の紹介で申し遅れましたけれども、マップ作りの段階から交流のありました中心部地域の方のお一人も一緒に参加していただいたと、それから札幌の株シー・アイ・エス計画研究所からも来られたりして、当日、大変天候にも恵まれ、そして実際に自分の足で歩いてみて、地域にこういう緑の素晴らしいところがあったのかということに改めて感動を受けたということがあります。これは実際に歩いて自分の目で見て、車でぱっと通ったのでは絶対に分かりません。そういうところがあるのだと、これはおそらく町内のそれぞれの地域にあると思うのですよ。たまたま西町・川西ではこのようにしてまず第一歩を踏み出したと、そういうことは報告できるのではないのかなと思います。



これはですね『緑のかわら版』という、一つの情報の手立てです。活動している様子や何かが少しでも分かるように、出来たらですねこれを西町と川西の町内会の回覧板で回覧すると、一軒一軒にはいきませんが、回覧していただければ分かるのではないかと思います。

24年度に私どもが目標の実現にむけてささやかな取り組みをしているところをみなさんにご報告をさせていただきました。以上です。

(濱田コーディネーター)

ありがとうございました。今日のタイトルでもあります『できることから一歩ずつ!』っていうあたりで、一歩が段々力強くなってきているのではないのかなと思います。小林先生には後ほど、全体を通してコメントをいただくという格好でお願いしたいと思います。会場の方もご質問があるかと思いますが、後半のパネルディスカッションのところで、会場とのやりとりもあります

ので引き続き上原さんのほうから活動の報告をお願いいたします。

地域街づくり活動報告：中心部地域街づくり協議会会長 上原 芳昭 氏

私の方からは中心部地域の 24 年度の取り組みをご報告させていただきます。

中心部地域は 9 町内会、この 9 町内会で一年間運営しました。この中に商工会の職員の方、一条通りのみなさん、それからな通り会のみなさん、商工会の女性部のみなさんの方々の協力をいただいたですね。あそこにパネルもありますけれども、その方々の力を得て 9 町内会の全面的なバックアップをいただきながら 1 年間活動して参りました。いわゆる、『9 町内会の結束を深めることからスタート』という最高のタイトルとなっています。



第 1 回 6 月 4 日に今年は何をしようかということで、各町内会の代表の方に集まっていたきまして会議をしました。防犯の問題、美化の問題とか、シンボリックな場所があるだとか、色々な意見をいただきました。最後にみんなで一つ何かしないかということで、「街中にピンポイントを作る。楽しむスペースをはっきり告知しよう。」ということで、そのテーマで役員会がありました。役員会で練ったことを 9 町内会の皆さんにご提案をさせていただきました。それで今年は『灯ろう祭り』をやりたいということで、春は花をやっていますし、夏は『灯ろう祭り』をしたいということで、『灯ろう祭り』をご提案させていただきました。町内会のみなさんからご理解をいただきまして、それをやろうということで会議をしているところでございます。7 月 9 日に役員会で持ち帰って素案を練ったことをこういうふうにしたい。ああしたい。ということをお話させていただきました。町内会の方々に担当

をどうするか、基本的には各町内会さんに 10 セット買ってもらいました。各町内会のお子さん達に灯ろうに絵を描いてもらおうと、期間も長くやろうということで考えまして、当番を決めて 10 日から 15 日まで毎日灯ろうをつける順番を町内会で決めてやろうということで協議をして、ご理解をいただいて進んでいる会議の様子でございます。

8 月 2 日に技能士会のイベントがありまして、手作り体験『技能士祭』ということで、技能士会のご協力をいただきまして、一緒になって 9 町内会のみなさん、商工会の職員の方々とか集まって灯ろうを 300 個作りました。大変なエネルギーでしたけれども、子供達の絵をみると大変ほほえましいものもありましたし、300 個はなかなかはけないので、地域の経済界にスポンスをいただいて作って、なんとか 300 個に近くなるように作りました。かわいいでしょ？子供が絵を描いてこのように結構良いものが出来ました。このように手間暇が掛かって町内会の皆さん方大変苦労しましたけれども、出来た後の感激はひとしおでした。これが 120 個の山ですよ。ということで、町内会、商工会の職員の方々とか、中心協の役員の方々の協力で、ここまで出来上がりました。

当日 8 月 1 日灯ろう祭りということで、立派な看板と、灯ろうを並べて一生懸命やって作りました。この看板が『なかしべつタワラマップ川 第 1 回灯ろう祭り まちなかにぎわい夏の陣』ということでやらせていただきました。



このように 300 個をどうやって並べたらきれいに見えるかということで、日の高いうちから集まって準備を進めて参りました。一個一個にするとなかなか難しいので真ん中に木で止めてやりました。これがことのほかうまくいきました。1 個 2 個つなげると水の抵抗があつて斜

めになるのですけれども、こうすると浮遊力が出て良かったです。日中見るとこんな感じですけども。これお子さんの絵です。いろんなお子さんの絵がたくさんあってすごく良くて、子供さん力作の絵はお母さんとかおばあちゃん達が一生懸命見て、「いやぁ、綺麗だね。」とっておりました。

これです。この灯ろう、この雰囲気。川の流れによってロウソクの明かりがふわっと揺れ動いて、中標津にもこんな幻想的なこういう状況も見えるのかなということで、このときは大変感動して「いやぁすごいなあいいなあ。」というので、最後の日に流すのが楽しみだと思っていた矢先にですね。大雨で、鉄砲水で150個が流されてしまいました。釧路建設管理部の方にも迷惑をかけて、みんなで拾いに行ったのですけれども、この時はまさかこんなにタワラマップ川が増水して流れるとは思ってなくて。何はともあれ大変、幻想的で素晴らしいもので、感動を見ることが出来ました。こんな感じで川に150個ありまして、周りに150個置きました。そんなことで、ちょっと苦労もしたのですが、最後の日は流しました。結構、川の流れが速いので、一気に行ってしまったのですけれども、これはこれでいいものがあったんですね。今年もまたがんばりたいと思っているのですけれども、なにせ予算的な問題がちょっとあるのかなと思ってございます。

春、夏といきましたので、秋は商工会あげてやっている『秋の陣』がありますので、次は冬何かしようということで、従来ずっと去年もちょっとお話したのですけれども、アイスキャンドルと、今年はイルミネーションで地域を飾りたいと、イルミネーションとアイスキャンドル、『冬の陣』としてやっていこうということで、会議をさせていただいて、町内会のみなさん方にご理解を得て、「よし、やろう。」ということで寒い中ですね一生懸命つけました。こんな感じで、綺麗でしょう？これはまちなかの助成金をいただいて、予算を付けていただいて出来ました。私達お金が全くありません。そのおかげでなんとか綺麗なものが出来まして、あずまやにイルミネーションを付けて、雪を彫ってキャンドルロードを作っております。これが町内会のみなさんが集まってソケットをつないで、吊るす準備段階です。この日は寒くて大変でした。やる人は一生懸命やってプロの方もおられたので、素人は見るだけで良かったのかなという感じで

したが、寒いのが今でも記憶に残っています。これは段取りの打ち合わせをしているところです。これが今回新しく助成金をいただいて作ったLEDイルミネーション。これ以外とお金が掛からなくて、ちょっと高いといえば高いのですけれども、向こう側からみると流れるようになるのですね。これがまたすごく良かったですね。これは、今年は100本くらい増やしたいと思っているのですけれども。そんなことで、イルミネーションもこうやって一生懸命飾ることが出来ました。結構あちこちから電話で「綺麗だね。」とか「良いね。」とか、フェイスブックでも「良いね。」とか出ていたりして、大変インパクトのある樹齢80年のオニグルミの木も、葉の落ちた木でも賑わいがあるのかなという感じになっていました。

これが、一生懸命商工会の職員が頑張って除雪機であけて道路を作っていただいて、我々がキャンドルを置いて作ったキャンドルロードです。これが東1条通りの歴史あるキャンドルです。これはもう雪に穴を開けてロウソクを灯す雪明かりもやっております、さすがはな通り会、東1条通りの人達は頑張っているなという感じがしました。これがはな通り会の力作です。今年は天気がちょっと不順でキャンドルを作るのは大変苦労したとはなな通り会の方々とか、商工会の職員のみなさんは言っております。私たちは作らずに運んだだけだったのですが、それにつきましても感謝を申し上げたいと思います。



良いでしょうなかなか。良いでしょうというのもおかしいかもしれませんが、とにかくみんなの力を借りて、町内会の人達だとか、冒頭に申し上げました団体の方々の協力をいただいて、ちょっと頑張れば、冬の何も使っていないところもこんなに良くなって良いなと、アベックも来るようになりましたし、みんなも見に来るようになります、以外とこう遊び感覚のスポットになってい

るのではないかなと思います。

これで一応報告終わります。またあとでお話しさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

(濱田コーディネーター)

ありがとうございます。9町内会と中心部の団体の方々が連携しながら実施された例かなと思いました。続きまして、野毛さんのほうから西部地域のお話、お願いします。

地域街づくり活動報告：西部地域街づくり協議会たこあげ大会実行委員長 野毛 徳利 氏



私から西部地域の街づくり協議会の取組みにつきましてご報告させていただきます。私はあまりしゃべるのは得意ではないものですから、うちのメンバーがDVDに全部、私共がやった事業を落としてございますのでそれをこの後流します。そうすると注釈を付けなくても分かるようにしてありますので、その前に流れだけ説明させていただきます。今のお2人のご説明があったように、西町・川西、中心部で色々な活動が行われておりましたので、西部地域でも何か出来ないかということで、昨年の3月から南泉、西泉、泉中央、そして緑町ということで、町のほうで分けけた西部地域の4町内会が集まって都市計画マスタープランの中で何か出来ないかということでございましたので、色々それらを検討して、今日私達の会長さん来ていると思うのですが、私は会長ではないので、うちの4町内会の会長さん来ていると思うのですが、その会長さん達が集まって、そして、何をすべきかということで協議していただきまして、最終的に『親子たこづくり・たこあげ大会』をやるうじやないかというようなことになりました。私は南泉町内会な

のですけれども、うちの会長さんは高橋さんといまして、この会長さんはですね、私もそうなのですがお酒の好きな会長さんで、お酒を呑むと色々なアイデアなり発言がポンポンと出るわけですね。うちの町内会が高齢化といったらあれですけど、ご高齢の方が多くて、町内会活動ってどうやっていけば活性化するのかとか、事業いっぱいやっているけれども、どうすれば参加してもらえるのかなとか、今言った都市計画マスタープランの中で町内会ってどうあるべきなのかな。とかっていうことをですね。色々、役員の方が苦労していたものですから、一杯飲みながら一回話しましょうかというようなことで、ノミネーション。「飲みながら語るかい?」ということで、語ったわけですね2、3時間飲みながら。そうしたら、「やはり町内会の活動をするためには人だよな。」と、よく考えてみたら隣近所誰かいてとか、あそこは子供さんが何人いて、とかっていうと、意外と分かっているようで分かっていない。ということなので、そういうことを考えたときに、4町内会が集まってこの事業をやっていく上での過程の中で大切なことはまず人を知らないといけないだろうと、細かい個人情報までは必要ないのだろうけれど、どこの人でほしい何処で働いていてどんなことやっている人だとか、昼会ったら挨拶しているのかとか、そんなことも含めて、子供さんも含めて、やはりそういう部分での人を知る、人との交流をするというのが入り口じゃないかなということがありましてですね、それで色々話しているうちに「どうだいこれ、3世代で一回たこあげ大会でもやって。あ、あそこの爺ちゃんとおそこの息子さんとおそこの子供だったのかということがわかるよね。」と、それを単純にですね、人と人との関係というのを図っていれば、例えばうちの町内会でパトロールやっているわけですね。パトロールやっている時に子供を一生懸命パトロールするのですけれども、パトロールをやっている人だけしかその子が分からないと、でも、もし、たこあげ大会で、3世代が集まってみんなが色々事業について楽しみながら何かを作って、一つのをやってみるとですね。そこから次の都市計画マスタープランの街づくり、町内会づくりということがと見えてくるのではないのかなというようなことがあって、うちの会長から「やっぱり、たこあげやろうや。」というようなことで、実はそんなことがあって、たまたま私がたこあげやった時の実行委員長だということでご

こにいるのですけれども、そんな流れなので頭に入れておいていただければと思います。

～ DVD上映 ～

（濱田コーディネーター）

ありがとうございました。この映像自体も地元の方達が作られたということで、いろんな才能が集まって出来たものかなと思って見させていただきました。活動に対するアドバイスについては後程ということで、3団体の活動ぶりをご覧になっての感想をいただければ助かります。

（小林コメンテーター）

今3つの活動を見せていただいて、思ったのは2つありまして、一つは、個別の活動ではなくて、こう思ったのですね。まちというのは腐ったり、錆びていくまちと、成熟していくまちがあると改めて思ったわけです。道路を作ったり建物を作ったり、公共施設を作ったり、商店街を作ったりして、新しいものをどんどん作りますよね。それがまちづくりだと思いつい思うのですよ。ところが、それってどんどん古くなっていくわけですね。古くなっていくとそこに一生懸命磨きをかけていくと、良いものになって、味があるものになって深みが出てくるのですけれども、黙っているとそれ、錆びたり腐ったりするのです。ですから、まちには腐るまち、錆びていくまちと、成熟していくまちというのが2つあるというのはそういう意味なのですけれども、改めて中標津町のこの6つの地域のうちの3つが、成熟していく、熟させていくというような試みに着手というのかな、改めて自分達がこういうことをやっているということを確認しながら1年間活動されてきたというのが良く分かりました。「1年間でたった3つじゃないか。」というふうにおっしゃるけれども、6つの地域のうちの3つやったわけですよ。50%ですよ。50%やれば確実に首位打者はとれるわけで、もうちょっと頑張ればリーグ優勝出来るくらいなわけなので、非常に短い1年間でしたけれども、すごい成果だなというふうに思います。もう一つ思ったのは、この町と全然関係ないのですけれども、東京である私立の大学の学生達と話をしたのです。そのうちの一人が、被災地の出身の子でして、今年の3月に卒業するのですよ。それでどうするかっていう話をしながらお酒を飲んでいたのですけれども、「自分帰る。」

と、帰るといのはどこに帰るのかというと石巻なのです。石巻というのは合併して大きくなったのですけれども、彼の出身地というのが旧雄勝町というところなのです。硯の石がとれる英雄の雄に勝という字を書くのですけれども、非常に有名な町なのです。でも石巻の牡鹿半島の反対側で、人はどんどん減っていくところですよ。でも、すごくコミュニティーがしっかりしている町です。彼は高校で今の石巻市のほうに出て行って、新宿のある私立の大学に入ったわけですよ。「どうして石巻の高校に入って大学こっちに行くのを決めたの？」と聞いたら、「地域の付き合いがうっとおしくて嫌だと中学の時にそういうふうにした。」と、けれども新宿に来て超高層の学校に入っているのですけれども、超高層のビルが学校1個なのです。そういうところに4年間暮らして、家も新宿で、そうすると「うっとおしいと思っていたその地域の付き合いというのがなぜか非常に懐かしくなってきた。」「自分にとって必要なものだというのがわかった。」と、それで、今『絆』という言葉で被災した人達が避難して、仮設の住宅に住んでいますよね。そこでお互い助け合ってやっていくというのに、「自分はやっぱりそういう生き方というのは理想だ。大事だと思う。」ということに戻るのです。石巻市に。



たぶん最後の方のたこあげに参加したお子さん達というのはお母さんとかお父さんに「面白いから行こうよ。」と誘われたのだらうと思うのですけれども、今お話ししたような新宿のある大学の子供と同じようなことを感じることが出来る人間というか、そういうチャンスに出会ったのだらうなというふうに思うのです。そういう大事なことを、地域を知るとか人を知るといのはものすごく若い人達にとって見れば影響がないように思うかもしれませんが、実はじわっと効いてくる漢方薬

みたいなものなのです。それで、すぐにはまちづくりというふうにはならないと思われるかもしれませんが、10年経つとこの中標津町どうしようかというふうに感じ、考える。そういう意味で非常に大事なことをなさっているなと思います。

それから、冒頭の庭作りの話ですけれども、あれをみていて、30年前の恵庭のことを思い出したのです。恵庭、今でこそあぁいうふうになっていますけれども、最初実はある大学の、農大の先生とそれから地域の、恵庭市の若手30代くらいの人と、僕と何人かで、温泉に入りながら、「何かしようよ。」っていう話してやっぱりその腐るまちと、まちを磨くという話しをしていて、どんどん新しい建物が出来ていくけども、15年経つとたぶんみんな古いなというふうに感じ始めるだろうと。でも、その時に花を植えたり、木を植えたりすると、15年経つとそれは立派になっていくわけですよ。そういうことでやり始めて、30何年経ったわけです。今でこそ恵庭はあぁいうふうになりましたけれども、最初は酷かったのです、実は。ですので、それを継続していくということは大変だとは思いますが、結果としては、先程お話しした子供達が感動するような場所、あるいはまち、地域というのをみんなで作ろうという種を蒔かれたのだなというふうに思いました。

中心部のお話しというのはかなり苦労されているなというふうに思いますけれども、自分の地域の中心部のことだけではなくて、町の全体のことを考えながらおやりになっているという、そういう見方もできると思います。

いずれにしてもまちをみなさんで磨いて成熟させていこうという志というのは良く読み取れたと思うのです。ですから、まちづくりというのは行政がやるものであると、道路を作って、建物を作って、公共施設を作ってなんとかする。これがまちづくりだというふうについつい思ってしまうのですけれども、まちづくりというのは実はそういうものではなくて、まちを磨いていく、まちを楽しみながら使っていく、みんなが笑顔で町に住む。これが本当のまちづくりだというふうに思います。それで、1年間の中でそれぞれの立場、あるいは非常に短い、仕事が終わってからご議論されているのだと思うのですが、そういう時間を使いながら非常に良い成果の一年をスタートされたのかなとそういうふうに思いました。

(濱田コーディネーター)

ありがとうございました。私自身、都市計画マスタープランをお手伝いしながら、3団体で直接そのマスタープランに書いてあることに取り組んだというその基礎になることをしっかりやっていたという意味では、先生のお話が心強く感じたところです。

さて、パネルディスカッションということなのですが、後半の方にそのまま引き続き移らせていただきます。



パネルディスカッション：～できることから一歩ずつ！繋がり広がる地域の街づくり～

パネリスト：原 怡男 氏、上原 芳昭 氏、野毛 徳利 氏

コメンテーター 小林 英嗣 氏

コーディネーター 濱田 暁生 氏

(濱田コーディネーター)

先程は報告ということで、どちらかといえば格好良いな。すごいなというお話しが多かったと思うのですが、実際活動されての悩みだとか、ここが難しかっただとか、あるいは楽しかったことといったあたりで感じていらっしゃることをお話ししていただきながら、若干、課題だとか、今後への活動の悩みがあれば、先生だとか会場の方にご意見いただく機会にしたいと思いますので、ちょっと時間が少しずれかかっておりますので、楽しかった感想あたりと、課題のあたりと、現状でのこれからへ向けての悩みあたりを絡めてお話しいただければ助かるのですが、原先生からでも。

(原パネリスト)

それでは、一年やってみて色々な感想あるのですけれども、一つ絞るとすれば連携の重要性というか、大変さというのを感じつつあります。一番身近なのはですね、

町内会が隣にあっても、なかなか総じて普段交流もなかったのですけれども、この緑のマップ作りから初めて交流が出来るようになってきました。これ大変私は心強く思っております。もっと身近に言うのですね。たまたまうちの町内会で行事があったときに「あそこの西町にある管理道路にマップを見て実際自分で行ってみた。」と、こんな良いところがあるというのは分からなかったと。連携していく第一歩は住んでいる地域の良さというか、素晴らしいところを感じ取って、それをお互いに語り合えるというのですか、それを言ってもらった時には私も大変嬉しかった。マップのことだけじゃないのですけれどもね。同じ地域、近い地域にいて意外とわからない。そういうことをまず知る再発見の手立てが連携の基礎になるのかなと思いました。もっと具体的なことを言いますと、このマップ、これが出来た背景にはですね、実は私共の協議会でやっていた素案はこれなのです。A3の3つ折でやっていたのです。何とかしなきゃならないということで、中身も写真も何も入っていませんでした。その時にですね、(株)シー・アイ・エス計画研究所の方から一つの貴重な情報提供をいただいて、こういうふうという一つの事例というか、サンプルをいただいて、これはもう私は目からうろこでした。見ていただければわかるのですが、この中に入っている情報量というのはすごいのです。コンパクトになったのと同時にそれによって情報量がピシッと確保されているというところを教えてくださいました。私共は町内会でやっていた色々知恵を出したり、協力しますが、まだまだ視野が狭いというか、困ったときに色々アドバイスをいただけることが、非常に重要であると、それがまた連携というか、支援をいただくというか、助言をいただくということが非常に貴重であったと思います。役場の街づくりの推進の方にもそういう機会を作っていたいたり、補助金という形で助成していただいた。それでなければこれは出来なかったですね。町内会でも初めて町内会費の中からこれを出すために、総会にもきちっと提案をして、このようなことをやるということで、理解してもらうことからスタートしました。今までは町内会費の中にそういう予算計上はもろくなかったですから、一步一步新たな取り組みをしていくにはいろんなご意見があるかもしれませんが、そういう趣旨については説明して理解していただくと。

そんなようなことで、連携の基礎になるところを大事にして、もう一つ実感しているのは連携の基礎になるにはやっぱりチーム作りというのですか、これは街づくりにおいては非常に重要じゃないかなということを実感しています。一番申し上げたい内容です。



小林先生にお尋ねしたい点は、自分達の今は緑の環境ということで、これは広げていけばもっともっと色々あると思います。だけれど、緑の環境を通して自分達の地域の良さというか、自慢できるところはいくつか見つけつつあるのですが、更にこれを広げていくにはどのように発想したら良いのかというか、それがこれからの課題だと思います。次年度に向けてまたいくつかの事業というか、試みはあとで発表しますが、自慢するところがあれば見つけてそれはまず自分達自身が目で見て、謙虚にもっと他に良いところがあれば教えていただいて、もっとより良いものにするにはどのようにしたら良いかという。そういうことは問題意識として持っていますので、アドバイスがございましたらお願いしたいと思います。

(濱田コーディネーター)

ありがとうございました。マップ作りが地域の良さも課題も実感できるきっかけ、しかもそれを両町内会で共有できたことが大きな成果かなと、それから、最後に先生にコメントをいただきますけれども、それを更に本来の意味でのまちづくりに広げて行くために、そのステップの踏み方みたいなものでしょうか。コメントありがとうございます。

それでは上原さん、9町内会の方々と一緒に一つの目標をもってプロセス、なかなか大変だったと思います。よろしく申し上げます。

(上原パネリスト)

連携して感じたことはですね。今年度はタワラマップ川を中心として、各町内会の特徴を活かしたそういう事業は取り組んでいないのですけれども、なんとか町の顔を作ろうというので、一緒になって考えたその連携の結果が、協力体制が出来つつある。出来上がってきていることに大きな手応えがあります。こういう状況をかながみながらやっていくとですね。平成25年度、あとで爆弾発言もしようかと思っているのですけれども、また頑張っていけるのではなからうかと私は思っております。以上です。

(濱田コーディネーター)

完結におっしゃいましたけど、次年度へ向けて提案されるような話がありましたので、後程、また次へ向けてのお話があるかと思えます。それでは少しさらっといきたいと思えます。

野毛さんよろしくお願ひします。

(野毛パネリスト)

一年目だったので、無我夢中にやった部分があるのですけれども、初め少ない予算のなかで、何を狙いでやる必要があるのかなということと考えた結果、『親子たづくり・たこあげ大会』になったのですけれども、実際にですねこれやる時に町内からいくらか予算いただきまして、町のほうから補助金少し貰ってやったのですけれども、「出来るのかな？これってこの金額で。」っていうことで、実は受けたときにはもう金額が大体決まっていたし、それで4町内会で人集めてやるのにこれでは出来ないのではないのかなと思ひました。しかしそのことがですね結果的に後で考えてみると、3月くらい、だけど、4町内会でやることなのだから、基本的にやっぱりそれなりの効果を狙わなきゃいけない。より良いものにするために考えて、みんなで協議して、そういうことでメンバーの人達色々ご協力いただいたり、ご負担いただいたりした部分があるのですけれども、そのことが逆に良かったなと思うことは、予算がたくさんなかったことによって色々話し合ったのですね。どうすれば良いか、どうすればみんなにPR出来て、もちろん予算がたくさんあればそこにあるようにですね。いっぱい物を刷って、印刷してみんなに配って、色々出来たのですけれども、そ

ういう費用もないということで、色々なことを話し合ったそのことによってですね。いろんな知恵が出てきて、そのことが結果としてですね。人と人との繋がりが深くなったということで、最終的にはそれが良かったなと。逆に予算もっと欲しいと思ったことが、少なかったことによって、その効果として、結果としては一つ一つの繋がりが思った以上に深く出来て、知り合うことが出来て、何かを進めていくときにお金が無くて人と人の気持ちが通じあうことによって、それならこういうやり方があるよとか、こうしたほうが良いよとか、そんなの原価で良いじゃないか。とかっていうそういうことがどんどん出てくるのですね。それとこれ3年間やるということになったものですから、一年目は無我夢中でやりましたけれども、あと2年間どういうふうにするかということも含めてですね、これから議論していくところなのですから、それが一つの課題だろうと、だから、1年目は出来たのですけれども、2年、3年目をですね、更にこれを活性化として結び付けて行きながら、そして、みんなの、町内会の生きがいとして続けられる事業として、一つのイベントとして、私としては成功しているだろうと、間違っていないだろうと思うのですけれども、それをあと2年3年とやって行くときにどういうふうにしてやっていけば良いのかということですね、もう少し時間をかけてやって行かなければいけないなど。そのことによって次の本当の4町内会のやるべき、求める、やってよかったなと活性化に繋げることが出来るのではないかというようなことを考えておりますので、そういう意味ではあと2年間をどうやって、やっていくかということはすごい大きな課題だと思っております。

(濱田コーディネーター)

ありがとうございました。というようなことで、やってみての楽しかったこととか、反省点とか、悩みだとか、結果こうやったことでうまく行ったのだよとか、本音のところもお話いただきました。

会場には一緒に参加された方達がいらっしやいますので、場合によっては補足みたいな格好で、原先生、会場のお仲間で近藤さんとか、中本さんとかお話しいただければと思ひますが、どうでしょうか。会場にちょっとお顔をみつけましたので、事前に何のお話もしてありませんで、中本さん最初の仲間で、7人くらいで一緒にやると

楽しんでやっていたらいいんですけど、いかがでしょうか。突然ですみません。

（川西町内会 中本 氏）

それでは、僕が感じていることではですね。マップ作り1年目で原会長には色々本当にお世話になりまして、(株)シー・アイ・エス計画研究所の濱田さん初め、役場の方色々なアドバイスを受けて、先程原会長が言われたとおり、本当にどうしようかと思った時にそういう色々なアイデアをちょっといただいただけで、本当に1年目でこのような素晴らしい、素晴らしいといったらおかしいですけども、うちら7人の仲間なのでですけども、意思統合して本当に良いものが出来たなど。それと、これから桜の季節になるますので、桜の季節になったときにはそれこそ、全町のみなさんに何かの形で呼びかけて、散策道路を散策してもらってね。「ああ本当に西町・川西町内会はこういういいものがあるんだなあ。」ということを実感してもらえたら良いなとそう思っています。それから、中央町内会の上原さんの灯ろう流しのあれも本当に大それたことをしたなあ、本当にかなり時間と労力が掛かったのではないのかなあ。夏にやり、また冬にまたこういうことをやり素晴らしいなと。野毛さんのところになりますけれども、野毛さんのところはさっき小林名誉教授さん言われましたけれども、本当に子供に夢を持ってやってくれたという、孫、子供、親、子供が本当に一致団結してあぁいう素晴らしいものが出来たという。よその町内からも集めてやってもらえればより一層良くなるのではないかなという実感でございます。

（濱田コーディネーター）

ありがとうございます。西町・川西のお話だと思ったら、他地区に対するコメントをいただきました。下心としてこちらにも声をかけて欲しいというお話しもありました。ありがとうございました。

中心部にしましては上原さん、他の一緒にやられた方で会場にいらっしゃる方でどなたか補足とかコメントをいただけそうな方がいらっしゃいますか。斉藤さん。

（上原パネリスト）

それでは斉藤さんよろしくお祈いします。期待しております。

（濱田コーディネーター）

事前に何の相談もしておりませんので、本当にぶっつけで申し訳ないのですが、本音のことで結構でございます。

（旭第2町内会 斉藤 氏）

事前に何か決まっていたみたいで。まず中心部地域街づくり協議会に私は携わっておりますけれども、まず9つの町内会が一つのものに取り組むというのは上原会長、そしてまた役員の皆様方はですね、もちろん労力もそうですけれども、お金の問題とか、第1回目の協議会に私出席していないのですけれども、お金が絡むことでありましたので、特にあの灯ろうですか、キットと紙とただか500円で、それぞれの町内会10個ずつというようなことであつたわけですけども、私共旭第2町内会は中心部から一番外れた町内会ですけども、即ですね、10個分5千円ということで、これは町内会として街づくりに参加することは非常に良いことだということで、町内会の皆さんには快く5千円出していただいたわけですけども、紙のほうには子供達に絵を描いてもらって終わったらまた、自分のところに持ち帰る。子供達の家を持って帰れるということだったわけでありまして、残念ながら、先程の報告もありましたけれども、15日に灯ろう流しをするということで、前々日ですか、豪雨で残念ながら子供達の元には帰ることが出来なかったわけでありまして、夜ですね、灯ろうの口ソクの明かりを見ると本当に綺麗で、携わって良かったなあそんなふうにお祈いしております。このキットの組み立ても技能士会の人達がある程度やっていただけましたので、絵は子供達を書くということで、私達役員はただ、組み立てたキットに貼るだけという状態でした。スライドにも出ておりますけれども、本当に綺麗でいろんな人に、携わった人達だけではなくて、町民の皆さんに見てもらいたかったな。と、そんな想いがいたしました。天気の部分というのはこれからの課題になるのかなと思っております。

冬のアイスキャンドルになりますけれども、氷の器、マニュアルを協議会のほうで作らして、自分達の町内会でもマニュアルに沿って作れば、それぞれの町内会で飾れるな。こんな想いでいたわけでありまして。当日は張

り切って行ったのですけれども、行ったときには出来上がっている。「どうしたのだ？出来ているじゃないか。」と、商工会の職員の人達がアイスクャンドルとろうそくまで作ってくれていて、私たちは飾るだけでしたけれども、来年以降は自分達もある程度作ってそれを子供達なり町内会の人達にも作ってもらって、それを自分達の町内会に明かりを灯す。小樽に『雪明かりの路 小樽』というのがありますけれども、おそらく上原会長は明かりの街中標津を作りたいのだろうな。こんな想いをさせていただきます。以上です。

（濱田コーディネーター）

次年度へ向けて更に自分達も参加したいというお言葉ありがとうございます。

野毛さんあの会場の方でどなたか補足していただける方いらっしゃいませんか？高橋事務局長さんとか、若森さんとか。女性メンバーがかなり参加されていますので、可能であれば、よろしくお願いします。

（南泉町内会 高橋会長）

先程、野毛実行委員長のほうから紹介あった酒の大好きな会長でございます。私達4町内会は小野会長を中心に渡辺会長、それから中野会長、そして私と、この方々で事前に様々な意見交換をいたしまして、「私達にできるのは何か。」ということで、相談の結果、子供達が今置かれている立場、どちらかという4世代、3世代の方々が一つのことに取り組むというこういうことがなくなると、もういっぺん日本古来の子供の遊び、また一緒に大人も遊んだそういうことに基盤を置いてやるうじゃないかということになりました。今年は10月20日と決定をいたしました。それで、第1回目の大会において中身をもう一度しっかり検証しようと、良かった点、これは取り入れていくといったそういった点をしっかり取り入れて行こうということになりました。協力してくれる町内会の各役員さんそういった方の希望もしっかり聞いていこう。第1回目の開催に大変なご尽力をいただいたのは老人クラブです。普段なかなか老人クラブの方々には老人クラブの集まりしかありませんが、当日はたこの先生役をやっていただきました。これは野毛実行委員長が先生になりまして、事前に会館で老人クラブの方々に教えていただきました。その時に非常に昔彼らもやってお

りましたので、喜んで作ったらすぐ会館の横でたこをあげて、昔の事を思い出したと。こういうようなこともありましたものですから、老人クラブの方々に当日の先生役、たこが壊れたら修理役をやっていただくと、こういうことで、非常に自分達の出番があるということで喜んでおりました。それから中標津小学校の先生方、子供さん方の協力を得まして、見事200名を超えるような数になりました。先程も川西町内会の方からお話がありましたけれども、今年は是非参加させていただきたいという町内会の声が届いております。そんなことで、今年はそういう色々な一回目の反省を踏まえ、さらに充実したたこあげ大会を続けて行きたいとそのように考えております。以上でございます。

（濱田コーディネーター）

ありがとうございました。3地域の発表を代表の方にいただいたのですけれども、一緒にやった方のお話を聞くと、やっぱりこういう方達の力の結集だなということが良く分かりました。ありがとうございました。

予定の時間から少し遅れ気味なのですが、会場のほうから、直接関係のない地域の方で、ご発言したいという方いらっしゃったらご意見いただいたりするとありがたいのですがいかがでしょうか。

なかなか難しいですか。

それでは小林先生、先程、原先生のほうから緑なり花をきっかけにスタートしているので、これを更に拡げていくというときの、先程恵庭の恵み野のお話しをされて、スタートは小さなことから段々というあたり、その辺で先生、アドバイスもあろうかと思えます。原先生、何か今後街づくりを広げていくためにというご質問だったので、なかなか答えにくい部分もあるのかなと思うのですが、アドバイスなり、恵庭の時の先生のお役目なりをお話していただけると助かるのですが。

（小林コメンテーター）

あまり広げると最初は考えなくても良いと僕は思うのですよ。というのは、ついつい最初1だと次の年に2にして、3にして、4にしてというふうに思っちゃうのですけれども、地域の人が変わっていくというのはそう足し算的なものではなくて、ある時、キュッと変わると思うのです。ですから、3年続けるというのは、僕は基本

的には大事だと思うのです。最初2%とか3%の人しか興味を持たなくても、それを3年続けていくとたぶん1割から1割5分になるのです。1割5分になってそれを2年続けるとたぶん5割くらい行くのです。今までの色々な全国の小さな動きが広がっていくのを見ると、最初から5割にするにはどうしたら良いかというふうに考えないで、今スタートされたことを3年やるということが大事かなというふうに思うのです。



それはたこあげもそうだと思うのですけれども、ただ、大事なことは先程ジギスカンされていましたよね。終わったあと。ああいうふうに何かやった後、とにかく楽しい時間をみんなで持つ。楽しいことだけ参加しても良いよと。人の笑顔を見るっていうのを嫌だという人はほとんどいないのですよ。笑顔を見るためにそれはおじいちゃんの笑顔であったり、若い子の笑顔であったり、小さい子供の笑顔だったり、そういうのがたくさん会えるような場を必ず持って、それに参加する人を増やすというのを工夫していただいて3年間継続すると良いと思うのです。

それともう一つ、恵庭は2年目だったか、3年目だったか忘れましたが、コンテストをしようというふうにしたのですよ。コンテストといっても、いまでこそああいう立派なので、なかなか採点し辛い状況ですけれども、その当時はちょっとした工夫をされているところを、5人くらいで審査員をやったのですけれども、それで、中学校、高校の成績でいうならば、下駄を履かせて点数を付けたみたい。そういうことをやったのです。そうすると、「こうすることで評価されるのだな。」とか、「他の人はこんなところをよく見ているのだな。」というのをやっている本人達が気付くわけです。それを「ヨイショしていたんじゃないか。」って言う人もいるの

ですけれども、そういうふうにして、自分のやっていることが思いがけず評価されているというのが、コンテストということになったのですけれども、そういうふうに競争心を煽るという意味ではなくて、自分が何気なくやっていることが、外から見るとすごいのだというふうにヨイショではないのだけれども、評価してあげると、そういうことが大事かなと、評価しながら楽しく参加する人の笑顔を増やしていく。そういうのをやると3年経つと大化けするというふうに思います。

(濱田コーディネーター)

原先生、そういうことですので、今やっていらっしゃることを着実にやっていかれるということで大丈夫かなと思います。

時間が来ておりますので、それぞれの今後へ向けてだとか、もう少しこういうふうにするかとか、それから、上原さんには先程、ご提言があるということでしたので、議事録にきちっと載る提言ですのでよろしくお願いします。

(原パネリスト)

それでは西町・川西のですね、今後に向けての取り組みということで3点ほど申し上げます。

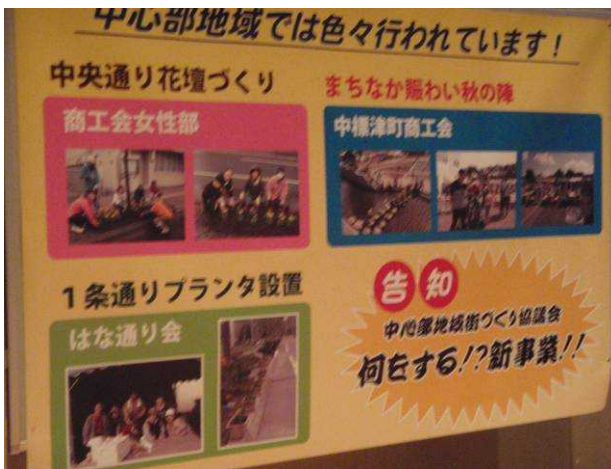
1つ目です。先程、うちの会からの、中本さんからのご発言があったのですけれども、緑のマップの中で、桜を入れているのですよ。この時期に是非桜が、24年度は紅葉を入れたのですけれども、桜の時期に是非見る機会を設けたいと、これ西町と川西の会員の方には全員ご案内すると。それから、他の市街地の町内の方にも何らかの形でお知らせ出来たらとは思っています。

2つ目です。身近な緑の環境を少し自分達の手で出来るものはないかというのを少し考えています。具体的に決めていないのですけれども、一つは桜の苗木を寄贈いただけるというありがたいお話があったのですよ。町民の方で、ずっと育てておられて、八重桜ではなくて一重桜といいますが、これを10本ほどいただいて、西町の管理道路に移植の植え込みをしたいと。このときに小学生や中学生も参加してもらおうようにすればやがて何年後にですね、自分達の植えた桜がこうなると、そういう緑の環境作りに参加していただけるのではないかなという期待があります。

もう一つ、もっと身近に花の寄せ植えの講習会を企画したらどうかと考えております。自分で苗を選んで、一つのプランタに植えてそれを自分の庭作りに活かしていくと、そうすれば環境を自分の手で工夫してやれるということが少し具体的に出来るのかなと考えています。

後は『緑のかわら版』なんかは継続してやって、先程小林先生からアドバイスいただきましたように特別新しいというよりは今やっていることを少しでも継続してやれるように心がけていきたいと思えます。

(上原パネリスト)



それでは、中心部地域から平成25年度の活動、あそこに書いていますけれども、「今年は何をする!」ということなのですが、春は当然従来通り、商工会女性部のみなさんとか、はな通り会のみなさんが花を植えるのですよ。夏は当然のごとくもう一回チャレンジして灯ろう流しを、町内会にも呼びかけて灯ろうをもう少ししっかりやってみたい。秋は商工会あげての『秋の陣』それから冬はイルミネーション。そして改めて9町内会の役員の方々と協議会のみなさんに怒られるかも知れないのですが、今年が一番気合を入れてやってみたいのは、商業の発祥の地であります、東1条通り。その界隈を『あきんど祭り』としてですね。灯ろうではなくて七夕祭りをしてみたい。柳でやると枯れるみたいなので、町木である白樺の木に短冊で吊るしたい。6児童館にお願いして、まだご案内が行っておりませんのであとで怒られるかも知れませんが、なんとかお願いして、6児童館に通っているお子さん達に夢、希望それから願いを書いていただいて、それを町内会の方とか、携わっている役場の方とか一緒に白樺の木そして、七夕に『まちなか賑わい あきんど祭』を今年はやってですね、み

んなにまちなかに見に来ていただけるようなちょっと大きなことをやってみたいと役員会では考えています。あとで9町内会のみなさんにお叱りを受けるかもしれないけれども、なんとか変わったこと変わったことをすると、なんかそわそわして行ってみたくなるというような形、何故私がそれを言うかということですね、東京の方で見えたのですけれども正に立派でした。そこまで大胆なことはできないのですけれども、できることから一歩ずつということで今年はそれに挑戦してやってみたいなと。

それから今、原会長さんもおっしゃっていましたがけれども、うちの町内会にも末広町内会、野球場の方に素晴らしい桜の木があります。前回の会議でご提案があったのですが、今年は9町内会あげてですね、そこに集まろううちの町も花見をやりながら横の連携を図って行きたいということが今年の事業であります。

3点目、これは今年から議論を重ねていって数年掛かる事業でございますので、結果は慌てて求めておりませんけれども、宮下町内会、神社の横に空き地があります。町有地ではありません。民有地ですけれども、あそこを見るとですね、盆地である中標津が一望出来るわけなのです。本当にこれはまちの中の第2の観光スポットになるのではないかと、ちょっと予算的なものがありますから、十分に9町内会で議論を重ねてですね、何年か後には町の方に要望書を提出したいなと私の一存では出来ませんが、そんな考えでなんとかまちのなかに観光スポットを考えていきたいなということで、役員会でけんけんがくがく喧々諤々と議論しております。

それから、4点目であります。タワラマップ川、町の協力をいただいて素晴らしい親水広場が出来ております。前に民有地がありまして、あそこを、対岸をですね建物を建てさせたくない。何故かという、あそこに建物が建つと観光スポット、体験スポット、娯楽スポットの親水広場。親水広場をもっと良くしようと思うときに、そこに建物が建つと景観が損なわれるので、何とかこれも町内会の皆さんと議論を重ねていって、そしてあそこを町民の総意でゲットして、小林町長の理解をいただけるような議論を重ねて、みんなの民意で町有地に町のために出来れば良いのかなと、野毛さんもいらっしゃいますが、『タワラマップを考える会』でいつも考えているのですけれども、そんなふうにご覧しております。

1点目は花見をやりたい。

2点目は『あきんど祭り』をしたい。それには児童館の子供達の協力を仰ぎたい。

3点目は第2の観光スポット神社の横に見はらし台を簡単に作って、あそこを町に来た人が、中標津町を大体一望できるそういう展望台があれば良いのかな。

4点目はもっと高いハードルになりますけれども、何とか東1条のあそこも、親水広場、タワラマップ川の対岸をですね、みなさん町民の総意で町の方にご要望あげて、あれをみんなで広く使える方法を考えていきたいなということでございます。これは25年度から30年度に向かうかもしれませんが、そんなことを考えております。以上です。

(野毛パネリスト)

私のところは、あと2年間たこあげ大会をやるということで、そちらの方に向かって継続してやっていくわけなのですが、その中身をですね、先程お話しがあ出ていましたけれども、他の町内会も参加したいという話もございますので、他の町内会の方も参加できるようにして、たまたま去年は風が吹いてくれたものですが、たこが揚がったのですけれど、風が吹かないことも考えられるというようなことで、風が吹かなくてもたこ作りをしながら、たこあげが出来なくてもそこでみんなが楽しめるようなそういう交流のあるものにしていきたいと思っております。



それから、今ちょっと上原さんの方から中心市街地の話ができましたけれども、私も一緒になって親水広場を作るのにですね。今、町長さん来ていらっしゃいますけれども、町長さんになられたときをお願いして、その前からお願いはしていたのですけれどもなかなか予算がつか

なくて、今の小林町長さんになられたときに予算をつけていただいたという経緯があります。その時にですね、船越さんも今そこにいらっしゃいますけれども「親水広場だけ作るだけではダメだよ。」と、親水広場を作ったことによって色々な部分でそこから繋がっていくような中心市街地なのですが、「繋がっていくようなことをやっぱり民間で考えてくれよ。」と、ということが言われていた経緯があるのですよね。そんなことがあって、西部地域の仕事はしているのですけれども、まちなかのそういうことにも関連しているというようなことで、上原さんが一生懸命やっておられるので、出来るだけ側面から応援してあげたいと思いますし、みなさんも一つよろしく応援してあげて欲しいと思います。以上です。

(濱田コーディネーター)

ありがとうございました。フォーラムとしてはだいたい流れが一通り済んだのでございますが、各地域で取り組んでいらっしゃるからその中での今後へ向けての課題であるお話しをいただきました。

今日、私が聞いていくつか良かったなぁと思ったことは自分の地域だけではなくて、よそと連携しようという話がかかり出ましたので、そのことを含めて先に3地域が取り組まれています。これからの地域を含めて一緒にやってみながら、これならうちでも出来そうだなとか、地域の方と「ああやって、やっているけどどちらはどう？」みたいな話しをしていただきながら広がっていけば良いかなと思います。それから、先程先生からは「一步一步で良いのだよ。」という話しがあったのですが、会場の方からも「やったことを少し見直ししながら、もう少し良くするためにどうすれば良いか。」「予算がないときは知恵を出す。天気が悪いときは食べ物で楽しむ。」例えばですね。そういうことを含めて、知恵を集めながら取り組んで行こうと、それを楽しくやろうという話しが出ましたので、今日のフォーラムの結論としては十分であったかなというふうに思っているところです。

先生最後に、先生をお迎えする機会がなかなかないので、協議会の取り組みで今後へ向けての長期のものも、出ましたけど最後にもう一言いただけますか？

(小林コメンテーター)

前もお話したような気がするのですが、ま

くりで忘れてはいけない言葉があるのです。「女老外」という言葉なのです。



『女性』と「老人」と「外国人」それがまちづくりには大事なのです。外国人というのはいわゆる日本人じゃない外国人もいますけれども、外からの人という意味も含めて結構だと思うのです。で、女性と老人はうまく参加されつつあるのではないかなと思うのです。もう一つ外の人の力というのをうまく使えるのではないかなというふうに思います。今年の新政権の補正予算で、総務省で「域学連携」という項目で補正予算がついたのです。それは大学が教育と研究をすれば良いという時代はもう過去で、これからは地域と大学は連携するのだと、これは前の小泉さんの時からの話なのですけれども、それは自分のそばにある、大学のある町をサポートするという意味ではなくて、例えば首都圏の大学が北陸の地域をサポートする。あるいは関西の大学が北海道の町をサポートする。違う町を連携してサポートするというのが域学連携なのです。で、このあいだ早稲田なのですが、相談があって北海道のどこかと域学連携をやりたいというので、「どこが良い？どこにしたいの？」と聞いたら。「根室だ。」と言っていたのです。それは「北方領土も絡めて何かやりたい。」と言っていたのですけれどもそういうふうに外の人の力を入れてくるシステムというのもうまく使い勝手が出てきています。補正でやって今度本予算にも組み込まれているのですけれども、是非そういうのも使っていただきながら、「女老外」というキーワードを最大限に活用していただきたいなというふうに思うのです。

それと、ある人に言われたのですけれども、忘れちゃいけないフレーズがあるよと、「志という土に想いという種を蒔いて根気という水をやって、そうすると夢という芽が出てくる。それをまた根気というふうな手入れをす

ると最終的に希望という花が咲きます。」とそういうことなのです。ですから、今やられているのはみなさんが志を持って土を作り始めて、想いという種を蒔かれて少しずつ芽が出てきているところだというふうに思うのです。それをずーっと継続していくとその『環境首都』あるいはみんなが光る。それぞれの人達が成熟した中標津っていう花になるのだらうと思いますので、焦らず、あきらめず、少しずつ着実に成果を上げていただければ必ず成功するというふうに思いました。

(濱田コーディネーター)

ありがとうございました。先生の最後のお言葉を今後の我々の励みにしながら頑張っていければ、また先生をお迎えしてここまで来ましたという良いご報告が出来るように地域の方々と頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。会場の方々どうもありがとうございました。

閉会：中標津町都市住宅課長 望月 正人

小林先生、濱田様、そしてパネラーの皆様大変ありがとうございました。ここで、パネルディスカッションに参加いただきました方々に会場の皆様方の拍手でお礼に代えさせていただきたいと思います。

それでは、会場の皆様、大変お疲れのところ最後までまちづくりフォーラムに参加していただきましてありがとうございます。今後、地域の皆様方と共にこの「都市マス地域別構想」の実現に向け、進めて参りたいと思いますので、どうぞお気軽にご相談いただきたいと思います。

それではこれで、まちづくりを閉会とさせていただきます。本日はお帰りの際はどうぞお気をつけてお帰りください。本日は大変ありがとうございました。